

『分岐点』

仙北市長 門脇 光浩

毎日が選択の連続です。無意識に何かを選んだり、さんざん悩み抜いてどちらかに決めたり、それは様々ですが、現在はその選択の結果と言えます。そして生きていく限り選択作業は続きます。

藤子・F・不二雄さん(漫画家) 代表作はドラえもん、パーマンなどの短編に、「パラレル同窓会」という読み切り作品があります。少しあらすじを紹介すると…。主人公の高根望彦53歳はある企業の社長です。出世を目標に選択を繰り返して、社長ポストを手に入れました。でも最近、「これでよかったのだろうか」と考えてしまうことがあります。ある日、そんな彼にパラレル同窓会の招待状が届きます。パラレル同窓会は、現在の自分が選択しなかった、もう一つの選択肢を選んだ自分(たち)が集まる異次元の同窓会で、つまり参加者はすべて自分です。海外駐在員の高根や窓際族の高根、テロリストの高根、死刑囚の高根までいました。漫画のオチは、昔からなりたかった作家の高根と入れ替わって生活を始め、少し経って、やっぱり「これでよかったのだろうか」と思ってしまうこと。人生

はどちらを選んでも悔いが残るものよです。

さて、新型コロナウイルスの世界的感染、その防止対策などで、これまでの常識や価値観が一変しました。私は、来年度からスタートする仙北市総合計画の後期計画や総合戦略の各事業には、大幅な方向転換が必要だと考えています。現状です。まずは新型コロナウイルス対策を最優先し、市民の生命と財産を守る本質的な役割を果たす、そんな目線で各計画の策定を進めて欲しいと市幹部会議で指示を出しました。また、今後の価値観は数よりの質の時代になることを予測し、これまでの尺度ではない達成目標づくりをお願いしました。さらに過疎の優位性・安全性に立った政策提案を求めました。感染症が収束するまで、市の将来像「小さな国際文化都市」の看板は、いったん下ろしたいと思います。

新たな道程が始まるようとしています。

新たな道程には新たな分岐点がいくつも生まれます。そのすべてに正しい選択を繰り返し、何としても市民の健やかな日常を守りたいと思います。



心豊かな教育文化のまち 《仙北市教育委員会だより》

角館中学校  
大曲仙北中学校  
陸上競技選手権大会

男子は14種目、女子は12種目が行われ、選手はリレーを除き2種目に出場でき、1位の選手が県通信陸上競技大会へ出場する権利を取得することができます。

7月17日、放課後の練習が始まったところで、2人の選手に話を聞きました。

石橋晏慈さん(3年)は、3年女子1000mと共通女子4000mリレーに出場します。「1000mではスタートから視界に誰もいないような走りをしたい。あきらめずに最後まで走る。そして1位をとって通信に出たい。リレーではアンカーなので、ゴールまでバトンをしっかり運びたい」と意気込みを話してくれました。



気合い十分!角館一のスプリンターとランナーです。

仙波温大さん(3年)は、2.3年男子1500mと共通男子3000mに出場します。「大曲に速い人がいるので、3位入賞を目指して頑張ってきた。この種目では最後の大会になると思って、自己ベストを出せるようにしたい」と、またこの後も田沢湖駅伝や市町村対抗駅伝ふるさとあきたランも出場して頑張りたい」と意欲満々で話してくれました。

目標は、石橋さんが13秒台、仙波さんが3000mで9分42秒を切ることです!

生保内中学校  
集大成となる都市総体へ



声高らかに、エール!

中止された全県総体を受け、延期していた都市総体が7月11日~12日に行われました。

7月9日に行われた生保内中学校後援会には、保護者や文化体育後援会会長もかけつけ、3年生にとって最後の大会

かくのだてフィルムコミッション  
ロケーションだより  
Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション  
(仙北市観光課内) ☎43-3352  
<https://kakunodate-fc.jp/>

撮影の問い合わせも少しずつ増えてきています。不慣れな部分もありますが、新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインに沿って対応しています。

7月27日、28日にジャパン・フィルムコミッション(JFC)認定研修が行われました。この研修は、フィルムコミッション活動に対する理解を深め、映像作品の撮影支援・活用を通じて、ますます地域を活性化させるために開催されています。今年、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、オンライン会議を行うZoomミーティングを活用しての研修会開催となりました。

かくのだてフィルムコミッション(以下FC)は、仙北市観光課の担当職員2人が受講しました。

研修は、「FC業務の基本的活動」「ロケーション資源の有効活用」や「作品完成後の活用、FC業務を活用

した地域活性について」などが行われました。オンラインのため、映像制作関連会社やスタジオの視察はありませんでしたが、実り多い内容だったと思います。

短時間の会議であれば、ノートパソコンの小さな画面と内蔵の小型スピーカーやイヤホンでも問題ないのですが、2日間わたる長丁場の研修会ですので、できるだけ疲れないよう、快適に受講できるように大きな画面とステレオスピーカーの環境を用意しました。受講したスタッフからは、講師の先生がその場で話しているような臨場感があったと好評でした。

全国的にFC事務局が行政、観光団体、商工団体などに所属しているため、数年で部署を異動することが多いのは避けられません。担当者の交代による影響をできるだけ受けずに活動を引き継げるように今後もこのような研修会を受講したいと思います。(会長 坂本 洋)



オンライン研修を受講中のFC担当職員。

神代小学校  
七夕のはなまつり

七夕といえば、天の川を挟んで離ればなれになっている彦星と織姫が1年に1度会える日という伝説があり、願いごとを書いた短冊を笹の葉に飾ります。

七夕についていろいろ調べていた、藤肥ルナさん(5年)は全校児童に昼の放送で呼びかけました。内容は「皆さんの願いごとを短冊に書いてください。一緒に飾りましょう」。放送は緊張しなかったかと思

いてみると、「前にも放送のマイクの前でお話したことがあるから、大丈夫だった」と話してくれました。練習の成果もあつたようです。また、「最初に2年生がたくさん書いてくれてうれしかった。私は「コロナウイルスが早くなくなりますように」と書いた」と教えてくれました。

飾られていた短冊にはこんな願いごともありました。

- 〇〇くんずっと友だちでいられますように。
- 柔道がうまくなりますように。
- 逆上がりがうまくなりたい。



たくさんの願いごとが飾られた七夕コーナー。

おじいちゃんがよくなって早く退院できますように。  
マジックがうまくできますように。

バレーボール部の主将と副主将に聞きました。主将・高橋瑞香さん(3年)は「コロナの影響で(大会が)できなからなかった。感謝しかない。楽しくやってきたい」と、副主将・佐々木璃子さん(3年)は「バレーができることに感謝。最後までボールを追い続ける」と、同じく高橋奈未(3年)さんは「どんな状況でもあきらめずにボールをつなげる」と意気込みを話してくれました。今大会で得たことを胸に、それぞれの今後の目標に向かっていってほしいです。